



特定非営利活動法人
国際ボランティア学生協会
2014年度 年次報告書



Contents

ご挨拶	2
2014年度のハイライト	3
国際協力	5
環境保護	7
地域活性化	11
災害救援	21
その他の事業	27
研修	31
組織図	33
会計報告	34



ご挨拶

2015年、本協会も発足から23年目を迎えます。

昨年度の学生会員数は2,700名(85大学)、実施したプロジェクト(国際協力9事業、環境保護48事業、地域活性化69事業、災害救援9事業)総数は135事業4,814名がボランティア活動を通じて社会に貢献して参りました。また、これらの活動に参加した学生たちは、厳しい環境の中で、たくましく成長しております。

未曾有の災害、東日本大震災から4年が経ち、本協会として、35回3,500名を超える学生・卒業生が、現地において復旧・復興活動に関わらせていただきました。震災当初は、声も出ないほどのすさまじい光景が広がり、4年を経た今、復旧もままならず、場所によっては人の生活感を感じない、寒々とした光景が広がっています。

今年の3月11日には、4回目となる気仙沼での追悼式の準備・運営に関わらせていただきましたが、震災時から変わることのない住民の無念さが会場を包んでいました。

本協会がこれまで行ってきた災害救援活動は、1993年の北海道南西沖地震から始まり、阪神大震災、中越地震、東日本大震災、さらには昨年の広島豪雨災害など、59の災害に171回7,987人の学生が救援活動を行ってきました。

この被災地で共通していたことは、「まさか、こんな災害が起こるなんて」という住民の無念さでした。それは、ある意味、過去の震災の教訓が活かされなかったということでもありました。

さらに、震災直後の避難から復旧・復興に至る経過の中で、地域コミュニティ(絆)の重要性も痛感してきました。

本協会では、これらを踏まえ「震災を風化させない」一つの取り組みとして、全国にある支部が、それぞれの地域において「地域コミュニティにおける課題研究」をテーマに、住民の方々と一緒に地域の課題を研究し、改善を図っていくことを計画しております。

この活動を通じて、防災におけるハザードマップの作成や防災教育・防災訓練、さらには地域の環境美化活動といったことを実践し、地域のコミュニティ強化のお手伝いできればと考えております。

今年も、「熱意は人を動かし、社会を動かす」をミッションに掲げ、若者の持つパワーと感性を活かして社会に貢献して参ります。

皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会
代表理事 下村 誠



2014年度のハイライト

■ 600人で琵琶湖の外來種駆除活動を実施

2014年度は、大規模事業の開発を事業方針として掲げており、本協会の最大規模である600人で活動を実施しました。活動内容は、滋賀県琵琶湖に異常繁殖するオオバナミズキンバイの除去活動を行いました。このオオバナミズキンバイは、2014年6月に環境省が特定外来生物に認定し、琵琶湖の脅威とされています。600人の学生で、総距離20kmに渡り数百の初期群落を除去しました。

マスコミ8社に取材され、県内外にこの問題を大きく発信することが出来ました。また、9月下旬の滋賀県の定例議会でも本活動が取り上げられ、駆除に関する危機感を認識し、補正予算が組まれました。学生の熱意と行動力で、滋賀県に大きなインパクトを与えました。

※9月の活動には三日月大造滋賀県知事も激励に来られました。



■ 関川村と地域連携協定を締結

IVUSAは2004年より新潟県関川村にて地域活性化事業を行っております。

活動をはじめて10周年にあたる2014年8月1日には、この協力関係を永続的なものとし、事業のさらなる発展を目的とした「地域連携協定」を締結しました。

この協定の連携項目には、地域活性化に関わるものはもちろん、平時の防災・減災や災害救援に関する項目も含まれており、2014年10月には、関川村にて全村規模で行われた防災訓練にも参加をさせていただきました。

今後はこの関川村の協定をモデルとして、様々な地域と協定を締結し、さらなる地域への貢献と共に、本協会がハブとなって各地域を繋ぎ、新たなビジネスモデルの創出を目指していきます。



■キャリアイベントをスタート

昨年度は、学生の将来に繋げるキャリアイベントを実施しました。IVUSAの活動に参加した学生は、過酷なボランティアの現場を通して、心身のタフさや数多くの仲間、ステークホルダーと活動を築くコミュニケーション能力を培ってきました。こうした経験を、将来のキャリアに活かせられないかと考え、企画したイベントが、「職コン(ジョブコン)～新しい出会いはこちらにある～」です。

ここでは、ベンチャーから大手企業まで10社の企業と約60名の学生が参加し、トークセッションなどの様々なプログラムでマッチングを行いました。イベント実施後は、実際に出展企業へのインターン参加や、内定を獲得した学生もいます。

2015年度からは、IVUSA キャリアサポートセンターを開設し、学生の就活をはじめとするキャリア形成を支援を本格的に始めます。



■関西で新事務所を開設

2014年5月、これまで京都事務所としていた京都府山科区から、大阪府高槻市に事務所を移転。関西事務所として開設しました。今回の移転は、西日本の会員数増加に伴う事務所機能拡充・事業拡大と、会員がより利用しやすい環境を提供するためのものです。

高槻市は京都市・大阪市両市からのアクセスも良く、各種会議、研修、会合などで、月に延100名ほどの学生が利用しています。

今後、研修事業や社会貢献活動事業など、周辺地域での事業創出にも取り組んでいきます。



■総ボランティア時間が10万時間を超える

2013年度は87,279時間だったのに対し、2014年度は117,754時間でした。

国際協力

1. カンボジア教育支援活動

【活動日程】 8月19日～30日

【活動場所】 カンボジア・コンボンチャム州、シアヌークビル州、タケオ州

【活動人数】 26名

【活動内容】

これまでの「小学校建設活動ではなく、カンボジアへの支援活動として、一度立ち回り学生に何ができるのかをテーマに、1次隊から6次隊までにIVUSAが建設してきた小学校・図書館をめぐる」と同時に、文化や歴史を知るための施設見学を含めたスタディーツアー。

次回建設予定地の視察も行った。

【成果】

- ・全5校での交流事業（運動会・染物）や授業（音楽・職業・衛生）の実施
- ・各学校への支援物資の贈呈

【課題・今後の方向性】

実際に行ってみて、ハード面での支援がまだまだカンボジアには必要という実態があり、次回建設活動に向けた資金調達やハード以外での支援を行っていく予定。

【協力・協賛】

大和ライフネクスト株式会社、KHJ



2. フィリピン台風災害救援活動

【活動日程】 9月1日～12日

【活動場所】 フィリピン・レイテ島バトゥグ市、ピリアバ市ブガブガ村、ヌエバエシハ州ラオー市

【活動人数】 41名

【活動内容】

平成25年11月に起きた巨大台風ヨランダ（アジア名：ハイエン）で甚大な被害を受けたレイテ島で、被害状況をヒアリングや防災のための植林活動や子どもたちに対する環境・防災教育、クリーンアップを行い、ルソン島ヌエバエシハ州ラオー市での植林活動、クリーンアップ、防災に関するワークショップを実施した。

【成果】

- ・植林活動やクリーンアップで現地の人たちを巻き込み、かなりの社会的インパクトを残すことができた。
- ・ラオー市で行った防災に関するワークショップは、IVUSA側の準備及びカウンターパートの協力があり、90人以上の人が参加し、真剣に防災や減災について話し合うことができた。このことに対しては参加者も達成感を持つことができた。

【課題・今後の方向性】

フィリピンで初めての活動ということもあり、カウンターパートとの調整・方向性のすり合わせが難しかった。IVUSAの活動スタイルが自己完結型ということもあり、文化の違う団体と一緒にプロジェクトを作っていく経験値を増やしていく必要がある。

【協力・協賛】

NPO法人JYMA 日本青年遺骨収集団、Binhi ng Kapayapaan



3. 第 3 次インド住宅建設活動

【活動日程】 2月 25 日～ 3月 11 日

【活動場所】 インド共和国ウッタラカンド州

【活動人数】 63 人

【活動内容】

インド共和国北部ウッタラカンド州において、2012 年に豪雨災害に見舞われた地域で活動を行った。老朽化した小学校の解体と新校舎建設のための資機材運搬を行った。また、現地住民約 500 名との交流会を行った他、インドの伝統的な祭りへ参加した。

【成果】

- ・老朽化した小学校 2 校の解体
- ・新校舎建設資材として、砂約 2,000 袋、砂利約 7,000 袋、レンガ 7,000 個の運搬

【課題・今後の方向性】

インドでは衛生環境が悪くゴミはいたるところに散乱している。また自宅にトイレがない地域が多く、特に女性が不自由な生活を行っている。これらの衛生問題に対する活動や取組も必要とされており、今後検討していく。

【協力・協賛】

M.A.Math、大和ライフネクスト株式会社



4. 第 11 次中国緑化活動

【活動日程】 3月 10 日～ 18 日

【活動場所】 中国内モンゴル自治区ダラト旗

【活動人数】 37 人

【活動内容】

内モンゴル自治区ダラト旗における植林活動並びに、環境シンポジウムと日中青年交流活動を行った。

【成果】

- ・フフホト民族学院大学日本語科学生 16 名と環境シンポジウムや植栽地における柵づくり約 1,000 平米
- ・ポプラの育苗場にて選定作業約 20,000 本
- ・北京理工大学外国語学院学生 30 名との交流会。

【課題・今後の方向性】

滞在全期間で日中の学生が寝食をともにできるようなプログラム整備。植栽作業の有無が天候や季節に左右されてしまう。日中だけでなく、韓国も含めた参加国の青年たちによる活動を視野にいれて検討していく。

【協力・協賛】

中華全国青年連合会、中国国際青年交流中心、共産主義青年団ダラト旗委員、北京理工大学外国語学院、株式会社エイチ・アイ・エフ



5. 青山国際日本語就学生との交流

【活動日程】 9月 24 日、3月 19 日

【活動場所】 青山国際教育学院とその周辺、代々木公園

【参加人数】 IVUSA 学生 35 名、就学生約 120 名

【活動内容】

日本語就学生との交流

【成果】

- ・野外で身体を動かし交流することで、話すだけでは得られない一体感を感じることができた
- ・また交流する中で仲が深まり連絡先を交換する参加者も多く見られ、幅広いネットワークの形成に繋がった

【今後の課題】

その場限りの交流に留まらず、その後のネットワークに繋げていきたい。

【協力・協賛】 青山国際教育学院



※バングラデシュで予定されていた環境美化活動（クリーンダッカ作戦）は現地の治安悪化のため中止しました。

環境保護

1. 淀川ワークショップ

【活動日程】 5月25日、11月16日

【活動場所】 大阪府枚方市

【活動人数】 延べ91名

【活動内容】

高槻市三島江地区の淀川河川公園で、清掃活動や、地域の子どもたちを対象にしたワークショップを行った。

【活動成果】

- ・子ども対象のワークショップは2013年11月に行ったのが最初だったが、初回よりも多くの地域の子どもたちに参加してもらうことができた。また、内3名は継続的に活動に参加してくれた
- ・子どもが淀川の自然に触れることのできる企画を複数、作り出した。(オナモミダーツ/三島江野草クイズラリー/ヘラオオバコ相撲等)

【課題・今後の方向性】

- ・淀川に親しむ地域住民を増やしていくためには、まだ参加者数が地域の住民・子どもの参加を募る方法は工夫が必要である
- ・今後は、本活動の背景にある環境課題を地域住民にまず知っていただくことを目的に、周辺の小学校での河川環境授業の実施を目指す

【協力・協賛】

国土交通省淀川河川事務所、淀川河川レンジャー、淀川河川公園地域協議会、NPO法人ネイチャー高槻



2. 京都北山森林保全活動

【活動日程】 7月5日、9月27日

【活動場所】 京都府京都市北区

【活動人数】 50名

【活動内容】

京都市は山に囲まれた盆地であり、総称京都三山（東山、西山、北山）と呼ばれている。京都三山は、古来人との関わりの中で形成されてきた山（二次林）であり、林業が衰退し、人の手が入らなくなったことにより、樹木の弱体化、多様性の減少、治山治水機能の低下、景観の悪化などが問題となっている。このような課題に対し、金閣寺の裏山に位置する「北山」で、森林整備を行っている。

【成果】

- ・年2回活動を行った

【課題・今後の方向性】

平成27年より本格的に活動を実施していくに当たり、作業の安全を確保した上での効果的な活動とするために体制を整備するとともに、年間計画を作成する。

【協力・協賛】

京都市



3. 第13回九十九里浜全域清掃大作戦

【活動日程】9月5日～7日

【活動場所】千葉県九十九里浜全域

【活動人数】278人

【活動内容】

千葉県九十九里浜全長66キロの完全清掃。

【成果】

・998袋（約4トン）のゴミ回収

【課題・今後の方向性】

過去13回の活動を通し、年々ゴミが減少してきている。これは当協会だけでなく、地元行政や住民が定期的に清掃活動を行っていることにもよる。一方で、砂浜が減少し、多くの海水浴場が閉鎖に追い込まれ、海ガメの産卵場所も減少してきている。そのため環境美化だけでなく、環境の保護や改善なども求められている。

【協力・協賛】

旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里市、白子町、長生村、一宮町、いすみ市、日本たばこ産業株式会社、相日防災株式会社、カルピス株式会社、ダイヤ製薬株式会社、大里総合管理株式会社、加藤光男氏



4. 阿蘇海清掃活動

【活動日程】3月17日～18日

【活動場所】京都府宮津市阿蘇海

【活動人数】34名

【活動内容】

阿蘇海は、天橋立によって日本海の宮津湾から仕切られてできた内海であり、近年、富栄養化によるヘドロの堆積や水質汚濁、魚介類の生活環境悪化、藻類の大量発生に起因する悪臭など、多くの問題が顕在化している。また、どんどん繁殖していた牡蠣殻が波の流れで浜に打ち上げられ、牡蠣殻による悪臭が問題となっており、後を絶たない不法投棄による漂着ごみの問題も深刻である。これに対し、堆積した牡蠣殻の回収作業、流入河川敷でのゴミ回収作業を実施した。

【成果】

・5トン以上の牡蠣殻、3トン以上のごみを回収することができた

・京都新聞に掲載された

・「地元だけでやるよりはるかに多くの量が取れた」「地元としてもこの問題を考え直すいい機会になった」「皆さんの力を借りてばかりはいられない」「みなさんに啓発されて地域でもこの活動を活発に行っていきたい」などの言葉をいただくことができた

【課題・今後の方向性】

・マンパワーがまだまだ必要とされているため、今後も、大規模隊での活動を含め、継続的に取り組んでいける体制をつくる

・漂着ごみ問題については、回収する活動を続けるのではなく、「捨てない」ように啓発を行っていく必要がある

・回収した牡蠣殻は普通に焼却処分が出来ない。現状、天橋立ワイナリーのブドウ畑で肥料として活用されているが、そうした処分・再活用法を模索する

・持続可能な活動としていくために、地域の子どもを巻き込んだ活動の展開、牡蠣殻を活用したビジネスモデルの展開を模索していきたい

【協力・協賛】

京都府丹後広域振興局、NPO法人丹後の自然を守る会、与謝野町、宮津市



5. 滋賀県琵琶湖外来水生植物除去活動

【活動日程】

5月25日、6月21日、6月29日、7月6日、7月13日、9月5日、9月15日～17日、9月24日、10月4日、10月17日、12月21日（活動）
8月23日、9月13日～14日、11月3日、12月14日、1月10日、1月31日、2月8日、3月1日（イベント・フォーラム等の参加）

【活動場所】滋賀県・琵琶湖

【活動人数】延べ1,265名

【活動内容】オオバナミズキンバイという外来水生植物が平成21年に守山市赤野井湾（琵琶湖南部）で発見され、当初は140㎡であったが、平成26年末には157,000㎡にまで拡大しており、琵琶湖南部一帯で確認されている。オオバナミズキンバイの繁茂により、漁業への影響が出ている他、水質の悪化や琵琶湖特有の生態系への悪影響が出る懸念があり、赤潮やブラックバスと並ぶ、琵琶湖の生態系を脅かす新たな問題となっている。

IVUSAでは、この問題に対し、平成25年より除去活動を開始した。機械による大規模駆除方法が確立されていない中、切断しても小さな茎から再生してしまう生命力を持ったこの植物を、マンパワーを活かし、人力で丁寧に除去するため活動を行ってきた。また、この問題の認知度は低いため、滋賀県内各種フォーラムでの広報活動を通して、琵琶湖の外来植物問題、ひいては環境保全に対する啓発も行っている。

平成26年3月には環境省、国土交通省、県や沿岸6市、NPO、漁協などでつくる「琵琶湖外来水生植物対策協議会」が発足。当協会も発足当初より、この協議会の一員として関わっている。平成26年6月には環境省から特定外来生物に認定された。

【成果】

- ・除去活動を年間計12回行い、約170t、7,000㎡のオオバナミズキンバイを除去することができた。
- ・通年の活動で数百以上の初期群落を除去することができた。一つひとつ丁寧に初期群落を除去することは、次年度の大繁殖を抑制する効果がある。大繁殖した場合、滋賀県、環境省が、相当な額の人件費、運搬費、処分費を計上しなければならないため、予防効果が高い。
- ・平成26年9月下旬の滋賀県議会定例会でも当協会の活動が取り上げられた。防除に関する危機感を認識し、補正予算として新たに予算を増額して、対策することも決議された。また、平成27年2月の草津市定例会議でも取り上げられた。
- ・9月の活動では三日月大造滋賀県知事、宮本和宏守山市長が駆けつけて下さり、激励して下さった。
- ・草津市、大津市の職員の方々にも私たちの除去活動現場に来ていただき、現状を視察いただくとともに、緊急性、必要性を訴え、危機感を共有することができた。草津市のHPでも、住民に対して注意が促された。
- ・大津市の瀬田川では新たに漁協組合、地元NPOと繋がりができ、協働して瀬田川沿岸での除去活動にあたることもできた。また、他団体に対し、この問題についての勉強会も開催した。
- ・平成26年度には約157,000㎡に生育面積を増やしたオオバナミズキンバイを琵琶湖外来水生植物対策協議会と協力して行うことで平成26年度末には生育面積を約42,460㎡まで減少させることに成功した。
- ・継続して行っている活動の様子やこの問題の重大性、活動の必要性について、滋賀県内のフォーラムに5回出展、発表を行い、淡海の川づくりフォーラムでは準グランプリを受賞。立命館大学で行われたエシカルキャンパスアワードではシルバー賞と特別賞を受賞した。
- ・生物多様性アクション大賞にエントリーし、入賞した。

【課題・今後の方向性】

- ・琵琶湖外来水生植物対策協議会の事業により、大規模生育エリアに対しては機械を使った効率的な駆除が行われている。しかし、機械では入ることのできない狭い土地や小規模生育エリアでは、人力によるきめ細やかな駆除が必要とされているため、IVUSAでは今後も小規模群落エリアの駆除を重点的に行っていく。
- ・また、この問題を解決していくためには、その地域の多様なセクターが協力し、問題解決に取り組んでいけるネットワークづくりが必要である。今後も、地域の若者として、地域の行政・団体・企業・住民などと積極的にコミュニケーションをとりながら、地域の皆で琵琶湖を守っていける体制を構築するハブとなっていきたい。

【協力・協賛】

助成：公益財団法人平和堂財団

協力：琵琶湖外来水生植物対策協議会、国土交通省、滋賀県、草津市、大津市、守山市、認定NPO法人びわこ豊稷の郷、玉津小津漁協組合、瀬田町漁業協同組合、近江ウェットランド研究会、滋賀銀行、勢田川漁業協同組合、湖南漁業協同組合、NPO 瀬田川未来塾、瀬田川を愛する会、建部みこし保存会、橋本代振協会



<琵琶湖外来水生植物除去大作戦>

【活動日程】9月15日～17日

【活動場所】滋賀県大津市、草津市、守山市

【活動人数】約600人

【活動内容】

オオバナミズキンバイをはじめとする琵琶湖で問題となっている外来水生植物の除去作業を、大人数で3日かけて作業を実施した。初日は、3市をまたいで琵琶湖南湖東岸全域において活動を実施。2日目と3日目はこれらの植物が5000㎡以上の大群落に成長してしまっている、草津市烏丸半島では600人の学生一丸となって完全除去にあたった。

【協力・協賛】

助成：一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会

後援：琵琶湖外来水生植物対策協議会

協力：滋賀県、守山市、草津市、大津市、環境省近畿地方環境事務所、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、近江ウェットランド研究会、認定NPO法人びわこ豊穰の郷、志那漁業協同組合、山田漁業協同組合、玉津小津漁業協同組合、瀬田町漁業協同組合、独立行政法人水資源機構、近江鉄道ゆうグループ、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、琵琶湖汽船株式会社、新守山川を美しくする会、滋賀県営湖岸緑地公園、草津市立水生植物公園みずの森、滋賀県立琵琶湖博物館、公益財団法人佐川美術館

寄付・協賛：株式会社 パスコ、株式会社 オンザウェイ、小林製薬 株式会社、株式会社 健康体力研究所、ライオン菓子株式会社、カルピス 株式会社、ユタカメイク 株式会社、ダイヤ製菓 株式会社、赤穂化成 株式会社、株式会社 駅前米屋、田中農産 代表 田中治嗣、西澤 千春、山本 智之（敬称略）



6. 神奈川県横浜市「こどもの国」竹林整備活動

【活動日程】4月20日、5月18日、6月29日、7月13日、9月11日～12日、10月5日、11月16日、12月21日、1月18日、2月10日、3月1日～2日

【活動場所】神奈川県横浜市「こどもの国」

【活動人数】延べ265名

【活動内容】

神奈川県横浜市青葉区にある「児童養護施設こどもの国」において、竹林整備活動や園内景観の改善を行った。

【成果】

- ・月1回の継続的な活動を行うことで、職員の方だけでは手が回らない部分の整備を行うことができた。
- ・開演50周年に際して、発展に協力した団体として感謝状を授与された。

【課題・今後の方向性】

今後も継続的な活動を行い園内の景観美化に努めるとともに、宿泊を伴う活動に参加できない会員への活動の受け皿となっていきたい。

【協力・協賛】

児童厚生施設こどもの国



地域活性化

1. 第1回福岡県星野村活性化活動

【活動日程】5月4日～6日 【活動場所】福岡県八女市星野村

【参加人数】68名

【活動内容】

2012年7月14日に発生した九州北部豪雨により被災した甚大な被害を受けた星野村(福岡県八女市)にて、星野村の観光資源の一つである、広内の棚田(日本棚田100選に選定)の復旧活動を実施。

水路の崩壊などにより棚田は、約2年間田植えを行う事ができず、このままの状態だと水田としての復活ができなくなるため、雑草の駆除や、固まった土壌を掘り返し再び利用できる状態に戻し、また景観改善のための1次利用としてひまわりを植えた。

【成果】

- ・23段の棚田の土壌整備・ひまわりの種まき完遂
- ・2013年度夢企画の具現化・実行
- ・長崎クラブの新歓戦略の一助となった

【課題・今後の方向性】

行政とも連携体制を確立し、棚田の復興に対するビジョンをしっかりとした計画でとらえる必要がある。

【協力・協賛】NPO 法人がんばりよるよ星野村



2. 東京都利島活性化活動

【活動日程】8月2日～8日 【活動場所】東京都利島村 【活動人数】105名

【活動内容】

椿油の日本一の生産地である利島が、高齢化によって椿油産業の存続が危ぶまれている中、利島の椿産業の作業補助など椿産業の実態に触れる所から活動を開始した。椿の実の収穫の準備のため、椿林の下草刈りの切っ払いや椿油精油所の見学などを行い、また、交流人口の増加の促進を行いながら椿関連製品のアイデアや利島の活性化企画を提案している。

【成果】

約10ヘクタールの椿林の下草切っ払いを行い、前年の交流からの繋がりや既知の仲となって話せるようになり、徐々に椿農家の実情に触れる事ができる環境が整って来た。

【課題・今後の方向性】

椿産業の保全と育成の課題が、椿の高齢化と農家の後継者問題にあると見えて来た。椿樹木の植替更新や利島のPRを、利島村に設置される第三セクターの利島振興組織と連携しながら利島村の活性化に若者が出来る事に取り組んでいく。

【協力・協賛】利島村役場、東京島嶼農業協同組合、利島建設株式会社、利島村漁業協同組合、カネダ株式会社、清水雄太様、荻野了様、高田裕也様、村山将人様



3. 第2回静岡県西伊豆町活性化活動

【活動日程】8月7日～10日 【活動場所】静岡県賀茂郡西伊豆町

【活動人数】80名

【活動内容】

防潮堤の設置による砂の堆積の減少、さらに2013年の豪雨災害による砂利とヘドロの堆積などにより失われてしまった安良里地区の干潟を、大きな砂利の除去、炭を使った砂地の土壌改善を干潮時に行った。

また、新しい地域活性化モデルをめざし、1次隊の宇久須地区や安良里地区にとどまらず、各地区のまちづくり協議会与協力し、各地区のニーズに対し半日ボランティア活動を実施。またフィールドワークや講演を通し西伊豆の理解を深め、最終日には町に対して事業提案を行った。

【成果】

- ・広い町内で、宇久須以外の地区での活動の実施
- ・行政・住民を交えて、学生からの西伊豆町への事業提案会の実施

【課題・今後の方向性】

受け入れ地区においてIVUSAの認知度が不十分。

町のバックアップや、各地域との足がかりは出来てきたので、立教大学ESD研究所なども協力してこれから持続可能な活性化をどう生み出していくかが課題。

【協力・協賛】

西伊豆町、認定NPO法人緑の地球ネットワーク、宇久須まちづくり協議会、安良里まちづくり協議会、田子まちづくり協議会、仁科まちづくり協議会、千年の森



4. 新潟県十日町市「清津ピクニックコンサート」活性化活動

【活動日程】8月8日～10日

【活動場所】新潟県十日町市

【活動人数】55名

【活動内容】

平成24年度に開催された十日町ビジネスコンテストにて、当協会に所属する学生有志によって、事業提案をし、平成25年度より事業実施されたイベントで、その運営補助を行った。

会場の草刈りや子ども向け企画の立案・実施などをし、地域住民との交流を図った。また、地域の特産品を用いたメニューを考案し露店で販売した。

【成果】

- ・約1ヘクタールの草刈りの完了
- ・地元特産品を用いたメニューを露店で200食販売
- ・フェイスブックページへの「いいね!」数、新規500名獲得

【課題・今後の方向性】

平成26年度をもって、IVUSA本部事業としての活動は終了。

【協力・協賛】

清津ピクニックコンサート実行委員会、十日町市役所中里支所、十日町市社会福祉協議会中里支所、元気印頑張り隊R、株式会社なかさと、昭和観光株式会社



5. 三重県熊野市大花火大会活性化活動

【活動日程】8月15日～19日

【活動場所】三重県熊野市 【活動人数】157名

【活動内容】

熊野大花火大会は毎年8月17日に開催し、日本各地から18万人以上の観光客が訪れる300余年続く紀州路最大の伝統行事である。しかし、担い手の高齢化や大会経費の増加という運営側の厳しい現状を知り、花火大会の運営補助活動を実施している。

具体的には、花火大会の運営補助として駐車場の整備、募金活動、海岸・市内清掃活動、物品販売、有料浜席設置などの活動を実施している。熊野市役所にインターンを派遣し、事前準備の過程でもサポートを行っている。

【成果】

- ・事業を実施することで、花火大会の運営に関して、大きな力になっている
- ・インターンを派遣することにより、事前準備の行政担当者の負担を軽減することができた
- ・本年より、地域の特産品の販売するブースを熊野市商工会議所と共同で運営することで、特産品や熊野観光資源を広報することができた
- ・最終日には、河上敢二熊野市長より、感謝の言葉をいただいた

【課題・今後の方向性】

- ・花火大会の運営のサポートを実施しているが、IVUSAの学生を派遣しなくても運営ができるように、地域の高校生などを巻き込んで担い手を育成することが課題として挙げられる
- ・物販に力を入れ、さらなる熊野の地域資源を広報できるように、広報戦略を強化する
- ・花火大会当日にゴミステーションの設置をすることで、環境意識やマナーの向上のための啓発活動を行う。

【協力・協賛】

熊野市役所観光スポーツ交流課・熊野市観光協会、熊野市商工会議所、熊野レストレーション



6. 新潟県関川村「大したもん蛇まつり」活性化活動

【活動日程】8月29日～9月1日 【活動場所】新潟県関川村

【活動人数】222名

【活動内容】

毎年8月の最終日曜日に開催される「関川村大したもん蛇まつり」で祭の運営補助を行っている。その他にも活動期間を利用し、祭での企画提案と実施・孫の手ボランティア・森林整備活動・地域の茶の間（交流）・討論会・行政インターンなどを実施。

【成果】

- ・20件以上に渡る地域のお手伝いニーズを「孫の手ボランティア」を通して遂行
- ・村民130名を巻き込んだ大交流会の実施
- ・祭での新企画実施

【課題・今後の方向性】

平成26年度から関川村と地域連携協定を締結。今後は協定をもとに、互いの資源を活かした新たな取り組みを検討。具体的には、大規模な本活動を利用し、防災啓発の活動などを展開していく。

【協力・協賛】 関川村、関川村温泉旅館組合、NPO法人渡辺家、おりのの会



7. 新潟県関川村「七ヶ谷雪ほたる祭り」活性化活動

【活動日程】2月7日～9日

【活動場所】新潟県関川村

【活動人数】53名

【活動内容】

関川村内の安角集落で行われている「七ヶ谷雪ほたるまつり」の運営サポートを平成24年度より実施。

【成果】

- ・祭での新企画実施
- ・マンパワーを活かし1,000個に渡る雪灯籠の作成

【課題・今後の方向性】

- ・地域交流の幅を広げるため、地元中高生を巻き込んだ展開の必要性がある
- ・単純に運営補助をするだけでなく、集客や収益事業などのビジネス手法視野にいたった活動展開を今後検討する

【協力・協賛】

関川村、タランペクラブ



サ



も

8. 新潟県関川村「えちごせきかわ雪まつり」活性化活動

【活動日程】2月10日～12日

【活動場所】新潟県関川村

【活動人数】32名

【活動内容】

関川村発足60周年事業として、関川村商工会の主催で今年度より初開催となった「えちごせきかわ雪まつり」の運営サポートを実施。

【成果】

- ・メインプログラムにも参加し、会場を盛り上げた
- ・実行委員会の構成員として、当日運営を円滑に進めた

【課題・今後の方向性】

- ・2回目以降の開催に向けて、学生の発想やマンパワーを活かしたプログラムの提案
- ・ビジネスチャンスを高めていくため、本イベントを軸とした観光振興のための企画を実施していく必要がある

【協力・協賛】

関川村、関川村商工会



9. 新潟県関川村「おおいしどもんご祭り」活性化活動

【活動日程】2月13日～15日

【活動場所】新潟県関川村

【活動人数】51名

【活動内容】

関川村内の大石集落で毎年行われている「大石どもんごまつり」の運営サポートを平成22年度より実施。

【成果】

- ・祭での新企画実施
- ・IVUSA ブースの運営（活動紹介）

【課題・今後の方向性】

本活動も5年目となり、大石集落との親交が深まってきているのを強く感じた。今後も村民の方々とより近い立場で活動をし、現地のニーズをしっかりと吸い上げていく。

【協力・協賛】

関川村、大石・山と川に親しむ会



10. お祭りカンファレンス

【活動日程】2月15日

【活動場所】都内の大学

【活動人数】21名

【活動内容】

IVUSA 理事で株式会社オプリージュ代表取締役として、旅館・ホテルの経営サポートや地域資源活用コンサルティングをされている村橋克則氏から観光を通じた地域活性化について、IVUSA のOB で内閣官房行政改革推進本部事務局の五十嵐光さんに、「持続可能な開発のためのPDCA サイクル」について話をいただいた。その上で、IVUSA が行っている地域活性化事業のオーバーホールをした。

【成果】

- ・専門家からの講演を通して、事業を客観的に見直すことができた
- ・自分が担当している事業以外のハイライト／ローライトを共有し、お互い刺激になった

【課題・今後の方向性】

参加者が少なかった。



に

11. 第3回静岡県西伊豆町活性化活動

【活動日程】2月19日～22日

【活動場所】静岡県西伊豆町

【活動人数】107名

【活動内容】

宇久須まちづくり協議会や「認定NPO法人緑の地球ネットワーク」の方々の協力の元、松枯れの原因の一つと考えられている腐葉土の除去を行い、西伊豆町にある間伐材や廃材となった木々を地元で取り組まれている炭焼き技術で炭化し、それらと根粒菌を林床に加えることによる、黄金崎の松の再生事業を実施。

【成果】

- ・黄金崎林床の整備・ツブキの移植と68本の松の手入れ
- ・交流会の実施と西伊豆PRコンテストの実施

【課題・今後の方向性】

単発的な問題解決を図る事業ではなく、きちんとした事業モデルを構築し、一貫した目的の下、持続可能な活性化の実施やソーシャルビジネスへの転換が必要とされる。

【協力・協賛】

西伊豆町・認定NPO法人緑の地球ネットワーク・宇久須まちづくり協議会・安良里まちづくり協議会・田子まちづくり協議会・千年の森



12. 新潟県十日町雪まつり活性化活動

【活動日程】2月20日～23日

【活動場所】新潟県十日町市

【活動人数】61名

【活動内容】

この活動は、2011年に十日町市を襲った豪雨水害に対する救援活動で築いた繋がりから始まった活動で、今回は雪まつりにおいて一番来場者が多い会場にて運営補助を行った。また、子ども向けのイベントの企画を立案し、実施した。

【成果】

- ・企画立案した子ども向けイベントに200名の来場者
- ・運営補助におけるニーズの完遂

【課題・今後の方向性】

地域の担い手が、年々減少してきており、徐々にではあるが祭りが縮小傾向にある。地元の中高生を担い手として育成し、地域に愛着と誇りを持ってもらい、将来の地域づくりの中核を担ってもらえるような仕組みづくりが必要である。

【協力・協賛】

公益社団法人十日町青年会議所



13. 第2回福岡県星野村活性化活動

【活動日程】2月27日～3月2日

【活動場所】福岡県八女市星野村

【参加人数】98名

【活動内容】

今回は2015年度に一部水田復興し田植え秋に稲刈りをするを目標に、棚田の整地と壊れた石積みの修繕を行った。

【成果】

・23段の棚田の土壌整備完遂

【課題・今後の方向性】

当初より2年計画で動き出していることもあり、2015年度が事業計画最終年度となるため、復興米のPRや星野村全体の活性化に今後どのようにかわっていくのかを検討する必要がある。

【協力・協賛】

NPO 法人がんばりよるよ星野村



14. 新潟県十日町市「雪原カーニバルなかさと」活性化活動

【活動日程】3月13日～15日

【活動場所】新潟県十日町市

【活動人数】200名

【活動内容】

IVUSA が関わり始めて15回目となった今回は、事前の広報活動や十日町市の国宝である火焰型土器の雪像づくりなど行った他、地域の保育園児との交流や、高齢者世帯の除雪活動など、これまで以上に地域と密接にかかわった活動を行った。また、十日町市の特産品を用いたメニュー考案し、露店にて販売をした。

【成果】

・12基の雪像の作成

・地元特産品を用いたメニューを露店で500食販売

・地域住民との交流会の実施（住民30名参加）

・除雪ニーズの完遂

・新たなネットワークの構築

【課題・今後の方向性】

地域のイベントの担い手が、イベントが開始した26年前と変わっておらず、高齢化が進んでいるため、数年以内に若い世代の担い手を確保しなければ継続が難しくなっていくことが危惧されている。そのため、当協会が現在の担い手と、将来の担い手のハブとなり、地域住民にとって魅力あふれるイベントにするための仕掛け作りが必要になる。

【協力・協賛】

雪原カーニバルなかさと実行委員会、十日町市役所中里支所、元気印頑張り隊R、株式会社なかさと、協同組合中里ショッピングセンター、十日町市地域おこし協力隊、公益社団法人十日町青年会議所、昭和観光株式会社



15. 新潟県長岡市栃尾地区ふるさとづくり活動

【活動日程】 5月23日～25日、5月30日～6月1日、6月20日～22日、7月4日～6日、8月1日～4日、8月22日～25日、9月10日～12日、10月3日～5日、10月24日～26日、10月31日～11月2日、11月14日～16日、1月9日～11日

【活動場所】 新潟県長岡市栃尾地区

【活動人数】 延べ601名

【活動内容】

平成16年に発生した中越地震の復興活動の中で生まれた、長岡市仮設住宅の住民の方とのつながりから、長岡市栃尾地区の築100年の古民家を拠点に月1回程活動を行ない、市内児童養護施設との交流、地元の祭りへの参加などの活動を行っている。「都会の学生の視点」と住民との「絆」によって、持続可能な地域づくりを目指す。

【成果】

- ・春、夏2回ずつ地元のお祭りの運営の手伝いを行った
- ・市内児童養護施設から年間4回の活動への参加があった
- ・中越震災から10年目という節目の年を迎え、これまで行ってきた半蔵金地区での震災式典事業も一区切りがついた

【課題・今後の方向性】

- ・児童養護施設、春・夏のお祭りの運営補助は継続して行う。
- ・中越震災10年目の節目を越え、区切りがついた活動に替わる新たな事業の形を検討する必要がある。

【協力・協賛】

栃尾同住会、NPO法人UNE、非営利活動法人復興支援ネットワーク・フェニックス、栃尾地域半蔵金地区、栃尾地域栃堀地区、栃尾地域下来伝地区



16. 三重県熊野市活性化活動

【活動日程】 5月3日～4日、6月21日～22日、8月2日～4日、11月29日～30日、2月14日、2月27日～3月1日

【活動場所】 三重県熊野市

【活動人数】 延べ99名

【活動内容】

- ・飛鳥熊レス村の赤紫蘇の植え付けのサポート
- ・熊野市小舟地区の梅の収穫のサポート
- ・響鼓 in 熊野（熊野市で開催される太鼓のお祭り）の祭りの運営サポート
- ・三重県紀北町の住民の方へ危機対応講習（CMT）の簡略版を実施
- ・熊野市松本峠のビオトープの整備活動を実施
- ・熊野市小舟地区梅まつりのサポート

【成果】

- ・熊野市を中心として東紀州地域の山間部、市街地での活動を実施することができた
- ・響鼓 in 熊野で、熊野市記念通り商店街との関係を作ることができ、花火大会の連携につなげられた
- ・担い手が不足している梅祭りでは、サポートを実施し、無事にお祭りの開催ができた。活動終了後、小船地域での交流会を開催することが出来、地域住民の方と交流を深められた
- ・紀北町にて危機対応講習（CMT）を2度実施し、AEDや心肺蘇生法などの講習を実施し、参加者に防災の意識などを高めることができた
- ・植え付けサポートを行っている赤紫蘇を熊野大花火大会でジュースとして販売することができた。

【課題・今後の方向性】

- ・熊野大花火大会の課題でもある地域の学生の巻き込みを年間チームとしても実施することができなかった？
- ・年間チームと大花火大会のチームが連携して事業を実施する
- ・地域の団体と連携を深めた事業を実施する
- ・CMTに対するニーズがあるためひとつひとつニーズを達成していく
- ・梅まつり30周年に向け、小船地地区と連携を深める

【協力・協賛】

一般社団法人熊野レストレーション、熊野市小舟地区、響鼓 in 熊野実行委員会、だんだんの会、紀北町社会福祉協議会、小船梅まつり実行委員会？



17. 京都府和束町活性化活動

【活動日程】 5月31日、6月9日、6月29日、7月12日、11月1日～2日

【活動場所】 京都府和束町

【活動人数】 延べ119名

【活動内容】

毎年11月に開催されている茶源郷まつりの運営サポートの他、休耕地問題を抱える茶畑の再生プロジェクトを行っている。茶源郷まつりへの運営協力の実績が認められ、茶源郷和束PR大使に任命されている。

【成果】

・3月の荒廃茶園再生プロジェクトでは、6,500本のお茶の苗を植えることができた

・同じく3月の荒廃茶園再生プロジェクトでは、「商品開発大会議」を開催。地元行政、茶農家、地域団体に向けて、学生が考えた商品パッケージや新商品などのビジネス案を発表。学生のアイデアについて、地元農家や関係者は非常に興味を示していた

・地元行政、茶農家、地域団体との交流会を実施。参加学生が地域に触れ、より和束町と和束町が抱える課題について考える機会となった

【課題・今後の方向性】

茶畑での援農のみに留まらず、商品開発大会議において発表したプランを含め、ビジネス化を模索していく。

【協力・協賛】

和束町、ゆうあんビレッジ



災害救援

1. 山形県南陽市災害救援活動

【活動日程】7月18日～21日

【活動場所】山形県南陽市

【活動人数】38名

【活動内容】

台風8号の影響により、7月6日から9日にかけて全国各地で大雨となり甚大な被害を出した。当協会は、山形県南陽市災害ボランティアセンターからの要請に応じ、災害救援活動を実施した。主に被災家屋の家財の搬出やヘドロの除去、消毒作業を行った。

【成果】

7件のニーズに対し、5件を完了し、2件を引き継ぎました。

【課題・今後の方向性】

現地のニーズにより応えていくため、一人でも多くの活動人員の確保や派遣に向けた即応体制などの体制づくりが必要である。

【協力・協賛】

公益財団法人車両競技公益資金記念財団



2. 宮城県山元町復興支援活動

【活動日程】8月5日～11日

【活動場所】宮城県山元町

【活動人数】212名

【活動内容】

山元町普門寺境内にて、津波により墓が流され、周囲の土砂や瓦礫と一緒にあった遺骨を大きな砂山状態でまとめただけになっていた骨塚を、選別作業を行いがれき等を除去、塚の成型を行う。平成26年3月に行われたカナダ隊で漂着物として発見された山元町の境界杭の返還セレモニーも実施した。

【成果】

- ・骨塚の選別、成形作業が完了し選別された遺骨を塚頂上に設置した納骨堂に収める式典を行うことができた
- ・被災地域に初めて足を運んだ学生たちには、被災地域や中浜小学校を中心とした震災遺構の見学も行い震災の風化を防ぐための活動も行えた
- ・山元町役場へ境界杭を返還し、返還当日は河北新報、読売新聞東北版などの取材を受けた

【課題・今後の方向性】

東日本大震災被災地での活動は、復旧から復興へそして地域づくりと活性化に移行しており、継続的な活動に向けた新たな取り組みなど模索していかなければならない。

【協力・協賛】

おてら災害ボランティアセンター、普門寺



3. 兵庫県丹波市豪雨災害救援活動

【活動日程】 8月21日～24日

【活動場所】 兵庫県丹波市

【活動人数】 26名

【活動内容】

兵庫県丹波市の豪雨並びに土砂災害に対して、丹波市災害ボランティアセンターからの要請に応じた活動を実施した。

具体的には、浸水被害のあった家屋の家財や畳等の搬出・撤去、家屋の床板はがし・洗浄・床下の泥出し・消毒・床板戻し、敷地内（庭等）に堆積した土砂・泥の除去など。

【成果】

- ・住宅ニーズ3件のうち1件作業完了、2件は引き継ぎ
- ・2件の引き継ぎ案件も、家屋内の土砂の撤去は終了。消毒作業と細部の清掃を残すのみ
- ・丹波市の各被災地域の中でも、局地的な土砂による被害が甚大な地区での活動であり、住民や重機だけでは復旧が困難な狭隘箇所での作業は、学生のマンパワーを活かした活動が展開でき復旧の一助となった

【課題・今後の方向性】

一人でも多くの活動人員の確保や派遣に向けての即応体制などの仕組みづくり。

【協力・協賛】

公益財団法人車両競技公益資金記念財団



4. 避難所体験訓練

【活動日程】 8月22日～23日

【活動場所】 千葉県の東金青年の家

【活動人数】 IVUSA44名、子ども21名

【活動内容】

小学生に対して地震発生時を想定した防災教育キャンプを実施した。また、当協会の研修プログラムであるCMT（危機対応講習）で行っている一次救命処置（胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの取扱）の講習も行った。

【成果】

- ・小学生19名に対する、主体性・協調性など集団行動の必要な意識の醸成
- ・応急救命講習の実施

【課題・今後の方向性】

平成26年度をもって、IVUSA本部事業としての活動は終了。

【協力・協賛】

大里綜合管理株式会社、ぬくもりクラブ



5. 広島県広島市土砂災害救援活動

【活動日程】 8月27日～30日、9月2日～5日、9月21日～24日

【活動場所】 広島県広島市

【活動人数】 204名

【活動内容】

8月20日に広島県広島市北部の安佐北区や安佐南区などの住宅地を襲った大規模な土砂災害に対し、被災家屋での土砂の撤去や家財の運び出し、避難所における健康・メンタル面の支援活動、避難所引っ越しの手伝い、物資の仕分け等の被災住民からの要請に応じた活動を実施した。

【成果】

- ・40件の依頼ニーズに対して34件完了、6件を一般ボランティアに引き継ぎ
- ・県内被災市町村の中でも、重機でなくマンパワーが必要かつ大きな被害が出ていた広島市安佐北区・南区にて、家屋の運び出し、床下の泥かきなど、住民だけでは対応できないような作業の手伝いを行うことができた
- ・避難所における、足湯ボランティアやマッサージ等の健康・メンタル面での支援活動も行うことができた
- ・土砂によって家屋の1階部分が流され、がれきや土砂の中に埋もれてしまった家財の搜索作業を行い、亡くなったお父さんから送られた結婚指輪など、思い出の品などを発見することができた
- ・緑井2丁目、4丁目全戸のニーズ調査を行いすべてのニーズを完了した

【課題・今後の方向性】

一人でも多くの活動人員の確保や派遣に向けての即応体制などの仕組みづくり。

【協力・協賛】

公益財団法人車両競技公益資金記念財団



6. 新潟県関川村防災訓練

【活動日程】 10月18日～19日

【活動場所】 新潟県関川村

【活動人数】 7名

【活動内容】

関川村発足60周年事業の1つとして、全村規模での防災訓練を実施。本協会は、関川村との地域連携協定の項目内「防災に関する協力」事項に基づき、防災訓練内にてプログラムを実施した。

【成果】

- ・水害を想定した救援活動の講演の実施
- ・IVUSAの救援活動に関わる展示会の実施
- ・70名の村民がプログラムに参加

【課題・今後の方向性】

防災に関しては平時からの活動が大切となってくるため、今後も継続的に取り組みを進めていく。

【協力・協賛】

関川村



7. 東日本大震災復興支援活動 2015

【活動日程】 3月8日～12日

【活動場所】 宮城県山元町・気仙沼市

【活動人数】 63名

【活動内容】

山元町普門寺およびおてら災害ボランティアセンターの行う3.11慰霊祭事前準備作業と、地域のボランティアニーズ対応。仙南地区から仙北地区沿岸の視察。気仙沼市合同慰霊祭運営スタッフ協力。

【成果】

- ・ニーズの完遂。震災遺構や復興市場、語り部によるガイドツアーなど、東日本大震災を考えるきっかけを初東北の学生たちに与えられた
- ・気仙沼市合同慰霊祭は例年通り無事に終了できた

【課題・今後の方向性】

東日本大震災被災地での活動は、復旧から復興へそして地域づくりと活性化に移行しており、継続的な活動に向けた新たな取り組みなど模索していかなければならない。

【協力・協賛】

おてら災害ボランティアセンター、普門寺、気仙沼市



8. 災害における学生ボランティアカンファレンス

【活動日程】 3月14日～17日

【活動場所】 宮城県仙台市

【活動人数】 30名

【活動内容】

「災害における学生ボランティアカンファレンス」は、海外および国内の防災に取り組んでいる若者（30歳未満）が未来の「防災」について議論し、防災アクションプランとして日本ユース防災宣言を採択し、ユースの考えや行動を世界に発信するチルドレン＆ユースフォーラムの「日本ユース企画」のテーマセッションの一つとして実施。

NPO法人みやぎ災害救援ボランティアセンターの事務局長の村上博之氏の講演を聞き、他の団体のユースと一緒に行動宣言を作成した。

【成果】

- ・最終的には「医療」「住まい」「環境」「防災」「災害ボランティア」の分野から成り立つ日本ユース防災宣言を作成し、第3回国連防災世界会議の本会議で発表した
- ・防災宣言を作成するプロセスで、違う団体のユースと意見交換することができた

【課題・今後の方向性】

防災宣言に関わる団体が少なかった。

【協力・協賛】

日本YMCA同盟、仙台YMCA



9. コミュニティ FM 向け防災番組「大学生が防災ラジオ、はじめました」を放送

【活動日程】 通年

【活動場所】 事務所

【活動人数】 7名

【活動内容】

平成 24 年 10 月より週一回 30 分の番組を、全国 48 局のコミュニティ FM で放送している。

<http://bousairadio.net/>

【成果】

大学生の視点で、防災について分かりやすく情報発信していくことができた。

【課題・今後の方向性】

運営側スタッフの確保が課題。

【協力・協賛】

番組制作協力：株式会社ジェイクランプ

ウェブサイト制作協力：ファンサイト有限会社

10. 世田谷区防災塾

【活動内容】

世田谷区では改正災害対策基本法第 42 条の二において定められた地区防災計画の策定支援を目指し、「発災後 72 時間は地区の力で乗り切る」をスローガンに、防災資源や被害想定等を確認しながら、区内 27 地区ごとの課題発掘や対策に向けた取り組みを区民主導で行うべく「防災塾」と銘打った学習会を開催。そのうち 9 地区 10 回の運営を行った。

【活動成果】

- ・世田谷支所管内：池尻まちづくりセンター、経堂出張所
- ・北沢支所管内：梅丘まちづくりセンター、代沢まちづくりセンター、新代田まちづくりセンター
- ・砧支所管内：喜多見まちづくりセンター、砧まちづくりセンター×2回
- ・烏山支所管内：上祖師谷まちづくりセンター、烏山出張所

【課題・今後の方向性】

地域差があるため、初年度は地域の防災資源の確認と被災想定の確認を基本に、それぞれの特性に基づいた課題の抽出を行った、次年度はその課題を深堀氏、進んでいる地区は具体的な課題ごとの対策案を検討する。平成 26 年から 4 カ年計画での策定を目指しており、最終年に各支所ごとに地区防災計画を策定する方針。

【協力・協賛】

世田谷区危機管理室災害対策課、9 地区まちづくりセンター、出張所管内の自治会・町会、コミュニティー組織・団体



11. 世田谷区内 NPO 団体の災害時における連携の仕組みを構築する事業 (平成 26 年度世田谷区提案型協働事業)

【活動内容】

区内には、500 近くの NPO が存在しており、首都直下地震の発生が懸念されている中、NPO は「共助」を担う大切なセクターである。「被災者から支援者へ」の意識改革を行い、各 NPO が「防災」に係る意識をもって、日頃から活動することが重要であり、発災後に備えて平時から区と NPO、NPO 同士の連携の仕組みを構築するために何が必要なのかを検討していく事業。

【活動成果】

- ・ワークショップ&街歩き…2 回、イベント出展参加…2 回、東北被災地視察…1 回、コアメンバー会議…7 回
- ・38 の NPO 団体がネットワークに加盟。フェイスブックページを開設し各団体情報を広報できるようになった。ウェブポータルシステムの構築にも取り組んでいる

【課題、今後の方向性】

ボランティアベースで行う NPO の連携事業の難しさに直面しながらも、コアメンバーを中心とする団体の特性やノウハウを生かせることが認識、共有できた。行政との協働効果については、適切な役割・責任分担ができ、良好なパートナーシップのもと、お互いの特性や強みを活かす点についても理解を深められた。

今後の発展性や方向性について、NPO の意識も行政側の意識も「防災」に対する取り組みの必要性は認識しており、イベントに参加する区民の反応などからも今後に向けた発展性も継続性も感じることができ的事业であり、今後は① NPO 団体への仲間作りの継続とキーマンに対する個別訪問による参加の促し、② 平時に NPO の専門性を生かした活動＝「勉強会、専門分科会」等を設置し罹災時にどんな支援活動を行えるかを検討、③ 事前の備えの明確化として、発災前に何をするか。発災時に何をするか。初災後に何をするか。復旧・復興期に何をするか。時系列に沿ったガイドラインの作成を目指す。

【協力・協賛】

世田谷区市民活動推進課、危機管理室災害対策課

その他の事業

1. 職 (job) コン ~新しい出会いはここにある~

【活動日程】 11月6日

【活動場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター

【活動人数】 54名

【活動内容】

2016年卒からの就活時期の変化を迎えて多様化する就職活動において、熱意あふれる学生と成長企業の人材マッチングの場を目的として開催。各参加企業がブースを出展し、プログラム内で学生と様々なコミュニケーションをとった。

【成果】

- ・10社の企業参加
- ・60名以上の学生参加
- ・数名はイベント後、参加企業へのインターンに参加した

【課題・今後の方向性】

- ・開催日程や時間の再検討
- ・参加企業と学生のニーズを改めて擦り合わせ、プログラムを改善する

【協力・協賛】

第一三共株式会社、エン・ジャパン株式会社、株式会社ワールドディング、株式会社グリーンキャブ、TAKAMI BRIDAL、株式会社ウェブレッジ、三菱UFJ不動産株式会社、丸紅 OKI ネットソリューションズ株式会社、ネクステージ株式会社、株式会社ウイズネット



2. 小田原ツーデーマーチ 2014 ライフセービング活動

【活動日程】 11月14日～16日 【活動場所】 神奈川県小田原市

【活動人数】 28名

【活動内容】

神奈川県小田原市で行われている小田原ツーデーマーチ（約8,400人が参加するウォーキング大会）において、当協会の研修プログラムのひとつであるCMT（危機対応講習）で学んだことを活かして、救護スタッフとして大会の安全管理を務めた。

【成果】

- ・大会参加者8,400名が大きな事故や怪我がなく大会を終えられた。
- ・IVUSAの他の活動に十分に活かせるだけの安全管理の実践経験を積むことができた。

【課題・今後の方向性】

大会の救護スタッフは救急救命士や看護師などの医療従事者がいる一方、IVUSAのように研修は受けているものの、特別な資格があるわけではない学生も関わらせていただいている。資格がなくてもできることが多くあることは、参加した学生が一番理解しており、そのことを今後、他の活動にも活かしていく必要がある。

【協力・協賛】 小田原市役所、城下町おだわらツーデーマーチ実行委員会、日本赤十字社小田原市赤十字奉仕団



3. 沖縄県戦没者遺骨収集活動

【活動日程】 2月6日～13日

【活動場所】 沖縄県糸満市

【活動人数】 157名

【活動内容】

沖縄県南部での、70年前に起こった沖縄戦の戦没者遺骨収容と遺留品発掘を行い、遺留品については御遺族の元へ返還することができた。他には沖縄県の戦跡を視察したり、現代版組踊「肝高の阿麻和利」の鑑賞を行った。

【成果】

20柱の戦没者をお迎えして、当該地区の遺骨収容と残存調査を完了した。戦跡4か所を視察して戦争の惨状に触れる事が出来、それぞれが平和構築について考える機会を持った。また、現代の中高生の舞台を鑑賞することで未来をイメージでき、過去から未来に繋がる活動を考えることができた。

【課題・今後の方向性】

戦後70年を迎え、戦争を生活圏で生身で体験した人が徐々に鬼籍に入られている。戦争を次の世代に伝えていく事も重要だが、戦争体験者ではない者が伝えられる事には限界もある。戦争や軍事も含めた国作りを考えていく機会として今後事業を継続していく予定。

【協力・協賛】

公益財団法人沖縄県平和祈念財団、特定非営利活動法人日本青年遺骨収集団 (JYMA)、国吉勇様、浜田哲二様、浜田律子様



4. 世田谷区市民活動支援コーナー運営 (委託事業)

【活動日程】 通年

【活動場所】 東京都世田谷区

【活動人数】 事務局3名、アルバイト8名で対応

【活動内容】

公益財団法人せたがや文化財団より委託を受け、主に世田谷区で活動している市民活動団体へ、打ち合わせや講義に使えるスペースの貸出や印刷機材の貸し出し等の施設運営、市民活動団体向け防災ワークショップの開催などを行っている。

【成果】

貸し出し件数延べ3,281件、利用者数延べ21,518人、58団体の新規利用登録申込があった。また支援コーナー運営外に行っている市民活動相談事業では20件のNPO関連や団体運営設立などの相談があり、アドバイス・サポートを行った。

【課題・今後の方向性】

2015年度末までが運営受託期間だが、今後もIVUSAの持っているノウハウや資源を活かし、世田谷の市民活動団体と緩やかなネットワークを形成し、防災の取り組みや新しい価値創出のハブとなっていけるような企画を実施していきたい。

【協力・協賛】 公益財団法人世田谷文化財団 (委託元)



5. 厚生労働省主催平成26年度硫黄島戦没者遺骨帰還事業 (委託事業)

【活動日程】平成26年4月～27年3月の期間に年間計9回(各回2週間前後)

【活動場所】東京都硫黄島

【活動人数】各回2名 計18名参加

【活動内容】

厚生労働省主催の、硫黄島での戦没者の遺骨収容・帰還事業の参加者推薦と派遣窓口業務。

【成果】

18名の事業従事者の推薦派遣と戦没者153柱の収容

【課題・今後の方向性】

戦後70年になってようやく、遺骨収容事業が法律として明文化されて国の事業として成立しつつある。今後も若い世代がこの事業を引き継いでいくため遺族会など先人の指導を受けながら推進していく。

【協力・協賛】

厚生労働省(委託元)



6. 夏休み体験ボランティア2014in ちよだ運営(委託事業)

【活動日程】4月～10月

【活動場所】東京都千代田区

【活動人数】10名

【活動内容】

フライヤーの作成、参加者管理、説明会の実施、活動先へのヒアリング、感想文集の作成等。

【成果】

より近い年齢の大学生が、プログラムの主な参加者である中高生に対してサポートすることができた。

【課題・今後の方向性】

活動先ヒアリングに対して、遅刻やコミュニケーションミスがあった。

【協力・協賛】

千代田区社会福祉協議会ちよだボランティアセンター(委託元)



7. 京田辺市学習支援事業（委託事業）

【活動日程】9月1日～3月31日の間で53回実施

【活動場所】京都府京田辺市

【活動人数】40名

【活動内容】

日本では、生活保護世帯で育った子どもの内4分の1が、大人になって再び生活保護を受けると言われ、育った家庭環境が世代をこえて連鎖する「貧困の連鎖」が問題となっている。

本事業では、生活保護受給世帯の子どもの学力と進学意欲の向上を図ることで進学を促し、「貧困の連鎖」を防ぐことを目的とし、週に二回程度の頻度で大学生が講師になり学習支援を行った。この事業は、京田辺市からの委託を受けて実施している。

平成26年は、平成27年度4月1日の生活困窮者自立支援法施行を視野に入れたモデル事業として実施した。

【成果】

- ・7ヶ月間で計53回実施。予定されていた開講日を完遂した
- ・18名（7ヶ月間延269名）に対し、学外学習の場を提供することができた
- ・平成26年の実績が認められ、平成27年度も継続して委託を受ける
- ・年の近い学生が講師を行うことで、利用児童が継続して利用する環境をつくることができた

【課題・今後の方向性】

・生活困窮者自立支援法の施行に伴い、学習支援を受ける範囲が、平成26年度の「生活保護受給世帯」から「生活困窮世帯」へと拡大する。これにより、利用児童数が急増する予定である。利用者数、日程が増えても、当然完全遂行すること

・平成26年度は初年度ということもあり、京田辺市も当協会も手探りで実施している状態であったが、2年度目の平成27年度は、最低限の質を担保するとともに、より「学生だからできる」支援の仕方を考え、工夫していきたい

【協力・協賛】

京田辺市（委託元）

研修

IVUSA では様々な国や地域で、異なった価値観や考えを持った人々と共に活動を行います。活動をより良いものにするためには、私たちが行う活動の背景にある社会的課題を知り、多種多様な人々とのコミュニケーションの仕方を学び、万が一のことがあった際に対応できる応急救命等のスキルを身につけておくことが必要不可欠です。

そのために、IVUSA では総合的コミュニケーション講習、社会理解講習、危機対応講習の3種類の研修を初級、中級、上級の3段階に分けて実施しています。そして、研修を通して得た価値観や知識、感取したものを活動の場で活かし、その場で得た経験を再度研修に落とし込むサイクルを作ることで、成長につなげることができると考えています。

この研修と活動の実践の繰り返しで、社会で将来活躍できる人材の育成を目指しています。

各プログラムは初級・中級・上級と分かれており、初級・中級は学生インストラクターが担当します。

■危機対応講習

CMT= Crisis Management Training

この社会に存在するすべての危機を回避することは不可能です。しかし、この危機の存在を「知る」ことで、「予測」が生まれ、予測から「対応」が生まれます。この危機対応によって、危険を回避し、被害を最小限にとどめることは可能です。北海道南西沖地震の救援活動をはじめ、過去20年以上にわたる災害救援活動の現場で培ったノウハウ・知識・安全管理という考えを元に、誰もが身につけておくことが必要と思われる応急救命措置や身の回りの危機に対処する方法を学びます。

【参加人数】初級:1,545人、中級:395人、上級:146人、インストラクター講習:36人

■社会理解講習

SRT= Society Reflect Training

自分たちが生きている社会がどのような課題を抱えているのかを知るとともに、課題解決のために自分たちに何ができるかを考える場を提供します。初級はボランティアの入門的な内容で、中級は環境保護、地域活性化、国際協力の三つの分野があり、自分が行きたいプロジェクトの分野の中級講習を受ける必要があります。

また上級では、日本と世界が抱える課題（リスク）に関して、包括的に学んでいきます。

【参加人数】初級:1,545人、中級:1,321人、上級:488人、インストラクター講習:18人

■総合的コミュニケーション講習

HRT=Human Relations Training

自己理解・他者理解を深め、相手の考えや感性を知ること、チームで計画を進めることを通して、コミュニケーション能力を身に付けるとともに、「サービスの受け手側」から「サービスの提供者側」へのマインドセット（心構え）の転換を図ります。

【参加人数】初級:2,144人、中級:679人、上級:221人、インストラクター講習:49人

■春合宿

【活動日程】6月7日～8日（計3回）、6月14日～15日（計2回）

【活動場所】7日～8日：県立足柄ふれあいの村、野外活動総合センター「友愛の丘」、青少年自然の家わっぱる

14日～15日：県立足柄ふれあいの村、青少年自然の家わっぱる

【参加人数】延べ957名

【活動内容】

IVUSAは毎年6月に研修合宿を実施しています。新年度となりメンバーが入れ替わった学生組織の中で、新入生や上級生がそれぞれの立場でチームとしてどう生きていくかを学びます。

主な活動としては学年ごとに用意された研修やチームビルディングワークの実施、組織理解のプログラム受講になります。

その他、飯盒炊飯などを通して親睦も深めます。

【活動成果】

・全会員の3割の会員が参加



■役員合宿・キックオフ合宿

【活動日程】学生役員合宿：12月26日～28日

スタッフ合宿：2月17日～18日、24日～25日

【活動場所】学生役員合宿：長野県阿南少年自然の家

スタッフ合宿：国土舘大学、龍谷大学

【参加者数】延488名

【活動内容】

学生運営メンバーを対象に、組織を運営していくにあたって必要なスキルや知識を身に付けることを目的として年に2度（内1回は東西別）の合宿を実施しています。



■夢企画ワールドカップ

【活動日程】10月12日（日）

【活動場所】世田谷区・京都市内の大学

【参加人数】関東112名 関西169名

【参加内容・成果】

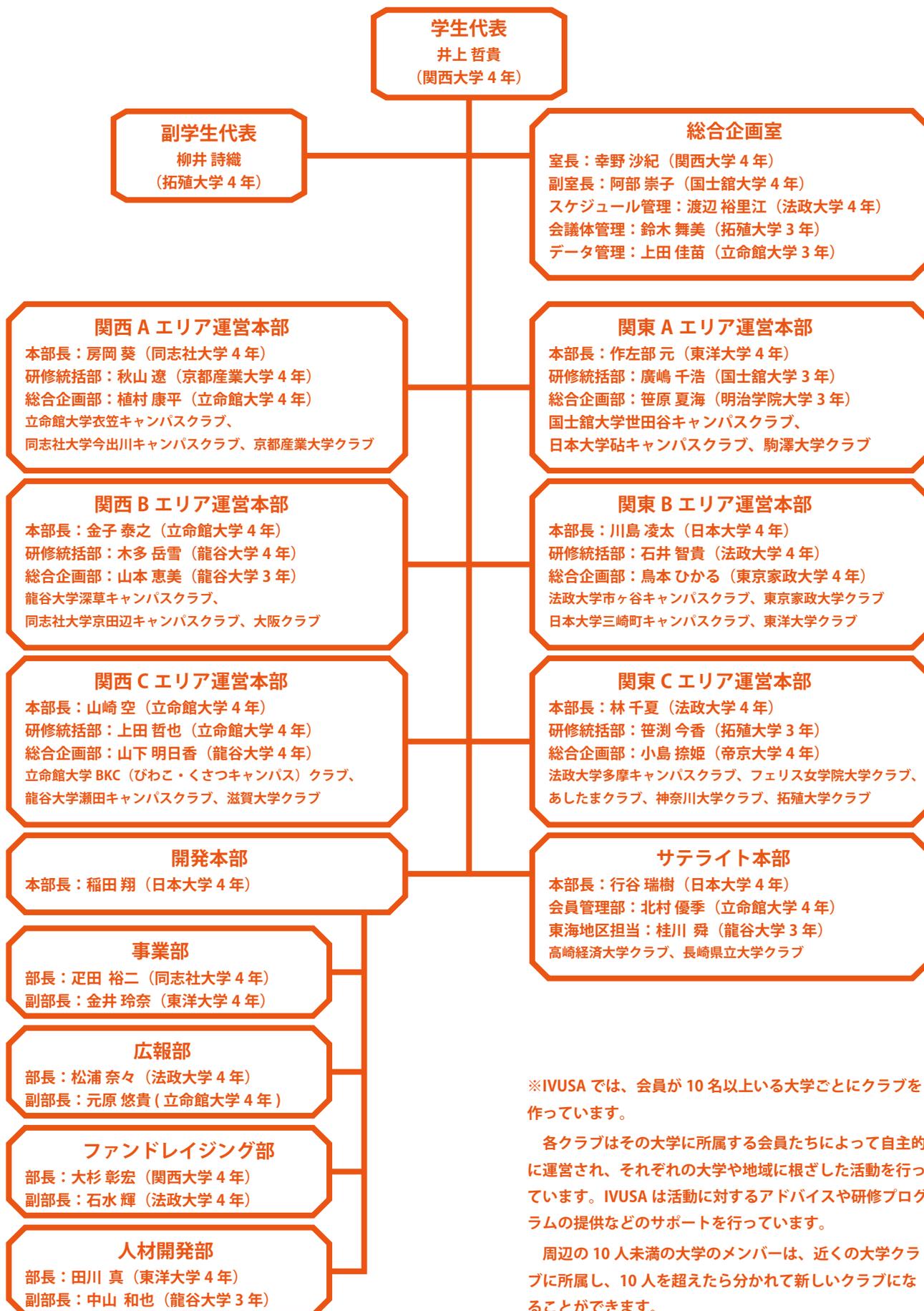
夢企画ワールドカップとは、そもそも学生の夢企画から始まったIVUSAで、「学生がやってみたい夢」と「社会の抱える課題」をマッチングさせ、実現に向けたアプローチを体験してもらおうと同時に、社会問題にも関心を持ってもらうことを意図し、2013年度より行われています。

学生会員から企画を募集し、話題性・社会性・実現可能性なども考慮し、何より面白いと思える夢（企画）を選考により絞り、最終的に関東関西の会場においてコンテスト大会を実施しました。

発案者は会員たちの前で夢のプレゼンテーションを実施し、最も応援したい、応援できると思う夢を会員たちが選ぶというもので、このコンテストにおいて審査員特別賞に輝いた「長野県森林整備活動」が、今年度の夏に活動として実施されます。



2014年度(22期)学生組織図



※IVUSA では、会員が 10 名以上いる大学ごとにクラブを作っています。

各クラブはその大学に所属する会員たちによって自主的に運営され、それぞれの大学や地域に根ざした活動を行っています。IVUSA は活動に対するアドバイスや研修プログラムの提供などのサポートを行っています。

周辺の 10 人未満の大学のメンバーは、近くの大学クラブに所属し、10 人を超えたら分かれて新しいクラブになることができます。

会計報告

【経常収入の部】

1. 会費・入会金収入	
入会金収入	4,936,000
学生会費収入	26,787,940
その他の会費収入	790,000
2. 事業収入	
(1) 国外における初等教育支援や 環境保全のための事業収入	24,802,816
(2) 国内における災害救援・環境 保護・地域活性化などの事業収入	73,236,545
(3) 各種研修・講習会の開催事業収入	19,424,891
(4) 情報発信・提言事業収入	0
(5) その他、本会の目的を達成する ために必要な事業収入	1,870,097
3. 補助金等収入	
民間助成金収入	7,576,856
市民活動支援コーナー委託料収入	8,922,880
その他委託料収入	1,652,782
4. 寄付金収入	
一般寄付金収入	4,865,540
募金寄附金収入	286,146
5. その他収入	
利息収入	8,061
雑収入	113,484
敷金精算収入	150,000
預り金収入	2,274,833
未払消費税等	2,631,500
経常収入合計	180,330,371

【経常支出の部】

1. 事業費	
(1) 国外における初等教育支援や 環境保全のための事業費	27,385,101
(2) 国内における災害救援・環境 保護・地域活性化などの事業費	78,100,837
(3) 各種研修・講習会の開催事業費	22,927,798
(4) 情報発信・提言事業費	6,004,677
(5) その他、本会の目的を達成する ために必要な事業費	6,759,688
2. 管理費	
人件費	2,574,348
賃借費	8,128,815
旅費交通費	2,547,043
車両費	1,047,595
通信費	544,389
消耗品費	1,468,073
諸会費	140,000
租税公課	63,729
支払手数料	1,424,712
荷造運搬費	162,489
会議費	921,294
修繕費	314,501
慶弔費	187,510
水道光熱費	849,982
図書情報費	102,507
業務委託費	4,000,396
リース費	350,568
インターネット関連費	583,596
雑損失	2,492,528
法人税、住民税及び事業税	70,000
雑費	150,004
3. その他の支出	
敷金支出	510,000
前払い費用	70,850
未払消費税	829,700
預り金支出	2,256,306
経常支出合計	172,969,036

当期収支差額	7,361,335
前期繰越収支差額	21,370,183
次期繰越収支差額	28,731,518

2014 年度年次報告書

特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

本部事務局 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102
Tel/Fax 03-6751-2683

関西事務所 〒569-1121 大阪府高槻市真上町 1 丁目 1-18 Insist21-3B
Tel/Fax 072-601-5109

E-mail ivusa-office@ivusa.com URL <http://www.ivusa.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/npovivusa>

Twitter https://twitter.com/IVUSA_OFFICE